令和８年度日米共同統合演習（実動演習）について（ＫＳ２７）

【演習の目的】

各種事態における日米共同対処及び自衛隊の統合運用について演練・検証し、日米共同統合運用能力の維持・向上を図るために実施します。

【演習の沿革】

日米共同統合演習は昭和６０年度から開始され、概ね毎年、実動演習と指揮所演習を交互に実施しています。本年度は実動演習であり、今回で１８回目の実施となります。

【演習の実施場所】

日本周辺海空域、自衛隊施設、米軍基地等において、様々な訓練を実施します。

【演習の実施期間】

令和８年１０月１９日（月）から１０月２９日（木）までの間（本実施期間の前後 約１週間（基準）で準備期間及び撤収期間を設定）で予定しています。一部には夜間及び土日を含む演習となりますが、皆様の生活に支障がないよう十分に配慮いたします。

【演習の内容】

演習の目的に基づき、我が国防衛のための自衛隊及び米軍の行動を演練します。このため、陸上、海上、航空作戦及び統合輸送等の全てを包含した総合的な演習となります。我が国防衛のための自衛隊の即応性及び日米間の連携能力を向上させることを通じ、皆様の安全・安心確保に資することができるものです。なお、本演習の一部に同志国軍が参加（オブザーバー含む。）します。

令和８年度日米共同統合演習（実動演習）について



水陸両用作戦



空挺作戦



海上作戦

統合防空ミサイル防衛






共同統合対艦戦闘





その他関連する訓練（日本全国各地）

- 情報戦
- 統合後方運用（輸送・補給、衛生等）
- 陸上作戦
  重要施設等防護（基地警備等）
- サイバー攻撃等対処
- 宇宙作戦
- 統合電磁波作戦
- 統合通信






※　訓練期間中、航空機の移動に伴う燃料給油のため、日米の航空機が海上自衛隊鹿屋航空基地、奄美空港及び種子島空港及び徳之島空港を使用する予定です。なお、陸上自衛隊の航空機に限り、奄美駐屯地及び瀬戸内分屯地も使用する予定です。

※　また、演習前後の期間において、自衛隊の航空機が鹿児島空港を利用します。

令和８年度日米共同統合演習（実動演習）の
鹿児島県内における訓練について

本演習において鹿児島県内で実施する訓練は、

① 統合通信訓練
② 共同統合対艦戦闘、統合防空ミサイル防衛（高射部隊等の機動展開訓練）
③ 水陸両用作戦（着上陸訓練、対機雷戦・水際障害処理訓練）
④ 陸上作戦（対着上陸戦闘訓練等、情報収集訓練、訓練準備等、協同対空戦闘訓練、統合強制進入作戦（目標捜索訓練））
⑤ 統合電磁波作戦訓練
⑥ 統合後方運用（輸送・補給/衛生/その他）
⑦ 機動分散運用（大型機の一時展開）
⑧ 重要施設等防護（共同／協同基地等警備訓練、滑走路（被害）復旧訓練、立入検査訓練）

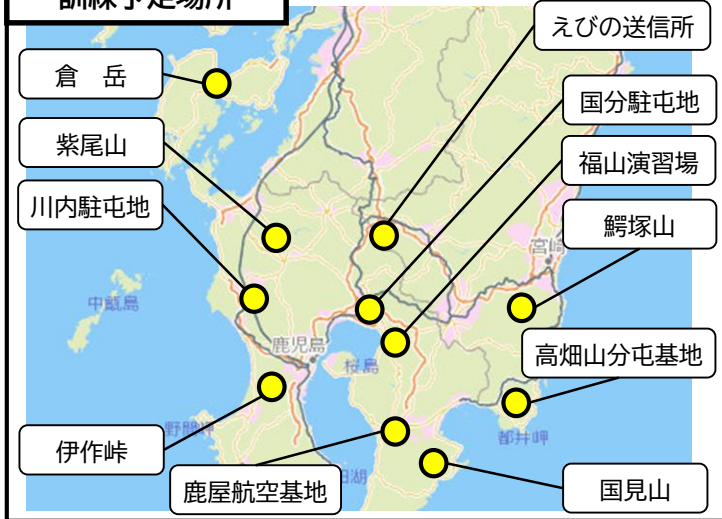
を予定しています。訓練内容は調整中であり、今後調整により変更の可能性があります。

熊本県、宮崎県及び鹿児島県で実施を検討している訓練内容
①　統合通信訓練

　統合通信訓練は、通信回線を構成する訓練です。本訓練のため、陸上自衛隊の通信部隊が熊本県、宮崎県及び鹿児島県に展開し、統合通信回線を構成いたします。
　訓練では実際に電波を発射いたしますが、住民の皆様の生活、民航機の運航等に影響しない周波数を使用します。

【期　　間】令和８年１０月１９日（月）～１０月２７日（火）
【参加部隊】陸上自衛隊　西部方面システム通信群　　２１名（車両：１０両）
　　西部方面後方支援隊　　８名（車両：　４両）
【実施場所】
　熊本県　：倉岳（天草市）
　宮崎県　：鰐塚山（宮崎市）、えびの送信所（えびの市）、空自高畑山分屯基地
　鹿児島県：紫尾山（薩摩郡さつま町）、伊作峠（日置市）
　　国見山（肝属郡肝付町）、海自鹿屋航空基地、陸自川内駐屯地、陸自国分駐屯地、
　　陸自福山演習場

訓練予定場所



訓練イメージ



【無線搬送端局（中継）装置１号】

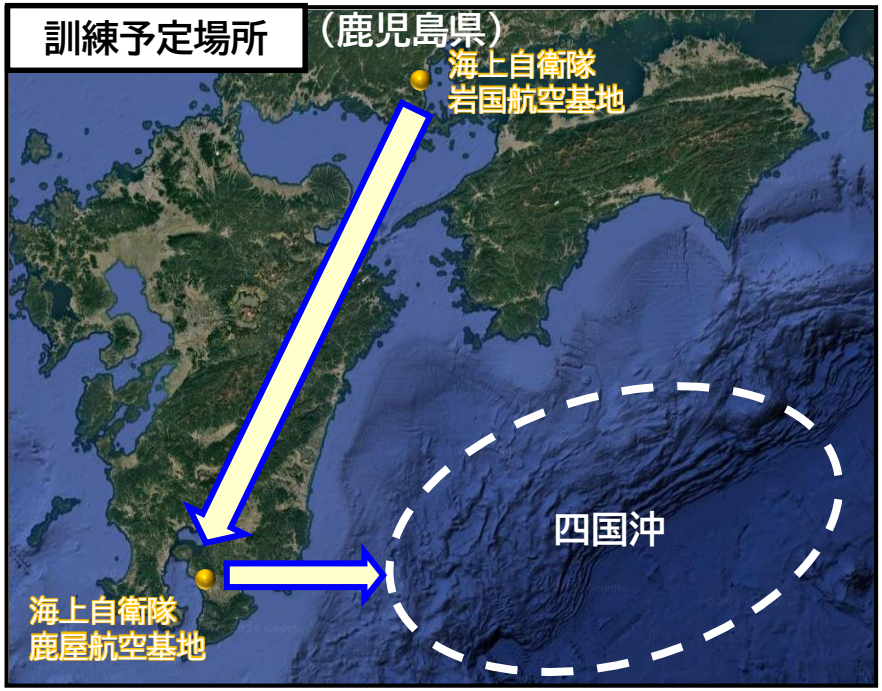
鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
⑤　統合電磁波作戦訓練

統合電磁波作戦訓練は、四国沖で実施される共同統合対艦戦闘等に連携して行われます。
本訓練のため、海上自衛隊鹿屋航空基地所属の航空機が四国沖で実施される共同統合対艦戦闘等に参加するとともに、海上自衛隊岩国航空基地の航空機が同じく本訓練に参加するため、鹿屋航空基地に事前に展開します。なお、本訓練では電波の収集のみであり、実際に電波を発射する予定はありません。

【期　　間】令和８年１０月２２日（木）～１０月２９日（木）（昼夜間飛行する（23：00～06：30の時間帯含む））

【参加部隊】海上自衛隊鹿屋航空基地所属	哨戒機「Ｐ－１」	×１機	約１０名
海上自衛隊岩国航空基地所属	多用機「ＵＰ－３Ｄ」	×２機	約２０名
	多用機「ＯＰ－３Ｃ」	×１機	約２０名
	多用機「ＥＰ－３」	×１機	約１５名

訓練予定場所



展開する主要装備品


海上自衛隊　哨戒機（Ｐ－１）


海上自衛隊　多用機（ＵＰ－３Ｄ）


海上自衛隊　多用機（ＥＰ－３）


海上自衛隊　多用機（ＯＰ－３Ｃ）

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
⑦　機動分散運用（大型機の一時展開）

海上自衛隊の鹿屋航空基地に所属する固定翼哨戒機を母基地以外の民間空港に機動展開させ、燃料補給、訓練用模擬弾薬搭載等を実施する。

【期　　間】令和８年１０月１９日（月）（予備日１０月２０日（火）、１０月２９日（木））
【参加部隊】海上自衛隊：第１航空群　固定翼哨戒機（P-1）×１機

訓練予定場所



訓練イメージ



民間空港における弾薬搭載
（イメージ）

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
⑧　重要施設等防護（滑走路（被害）復旧訓練）

海上自衛隊の部隊が鹿屋基地において、滑走路（被害）復旧訓練を実施します。なお、爆破薬を使用した訓練は実施しません。

【期　　間】令和８年１０月２２日（木）～１０月２６日（月）　※前後約１週間程度の準備・撤収期間を設定
【参加部隊】海上自衛隊：第１航空群 約２０名、第２航空群 約１６名 第４航空群 約１６名
　　第３１航空群 約２０名

訓練予定場所



訓練イメージ



